

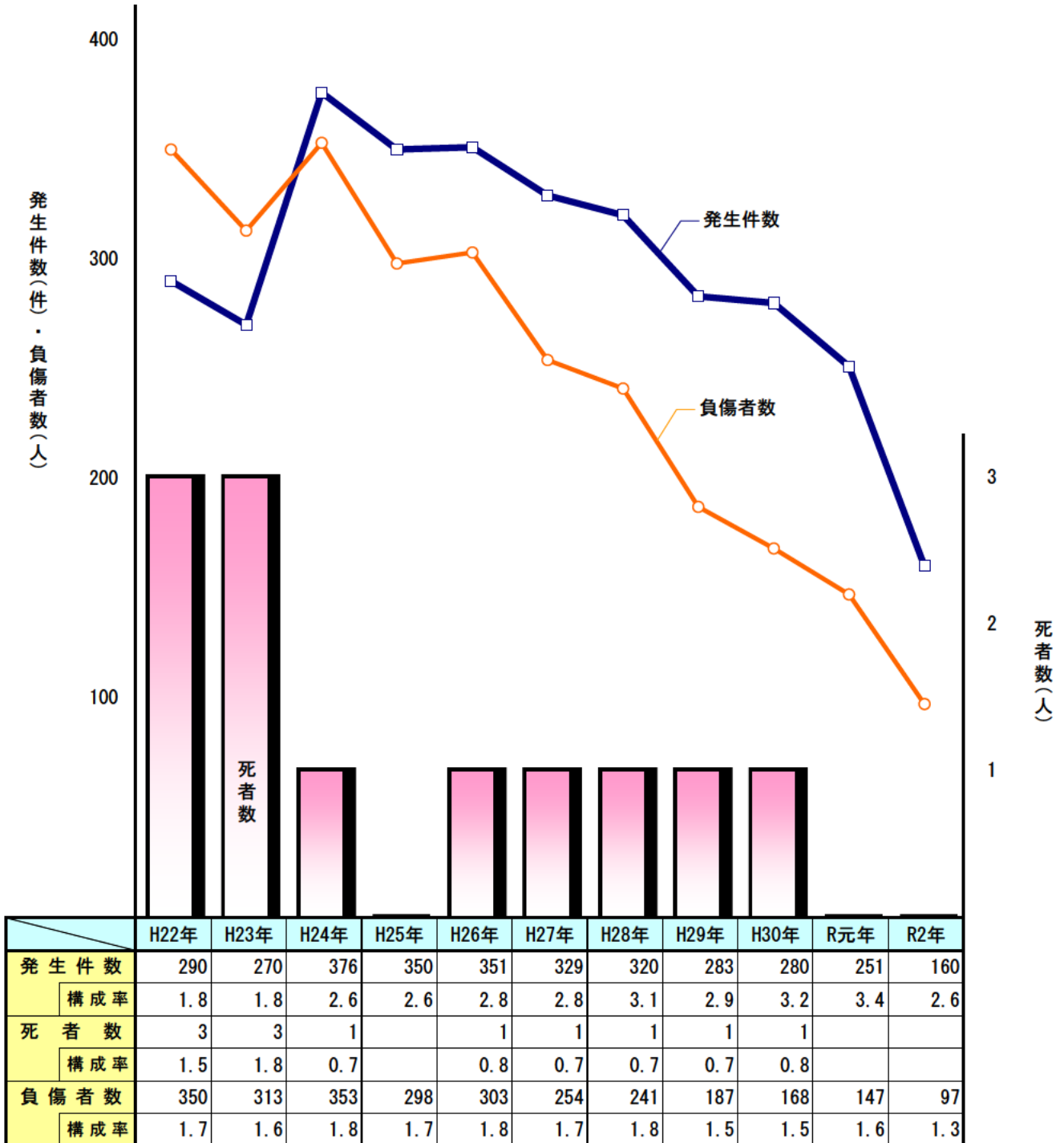
第5

幼児が関係した交通事故

1 推移(平成22年～令和2年)

負傷者数は減少しており、令和2年は統計資料の残る昭和42年以降で最少となりました。

過去10年間の死者数では、平成22年・23年の3人が最も多く、令和2年は死亡事故の発生はありません。



※1 「幼児」とは、小学校入学前の未就学児をいう。

※2 「発生件数」は、幼児が当事者(同乗者等を含む。)となった件数で、「死(負傷)者数」は、幼児の死(負傷)者数をいう。

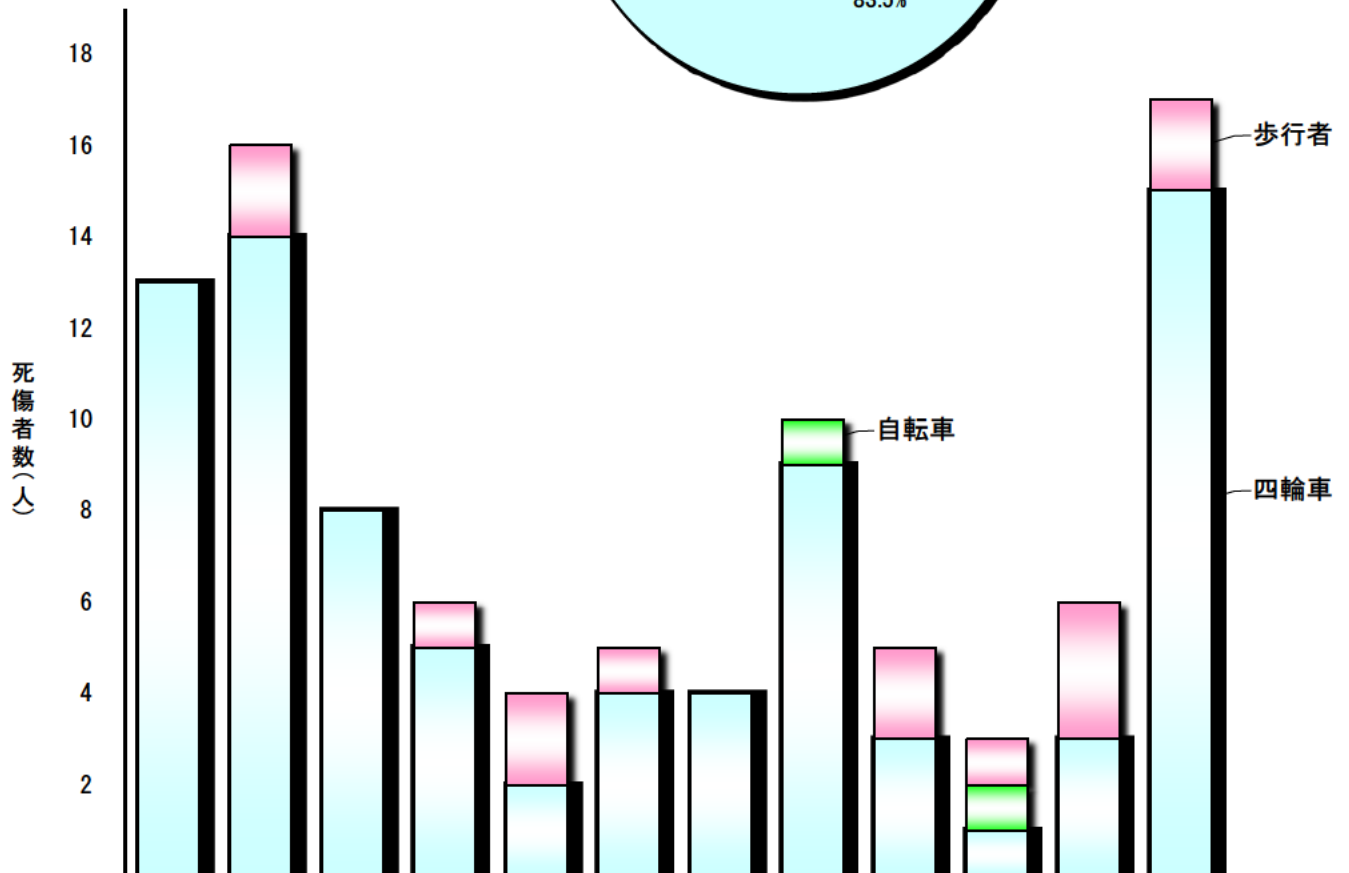
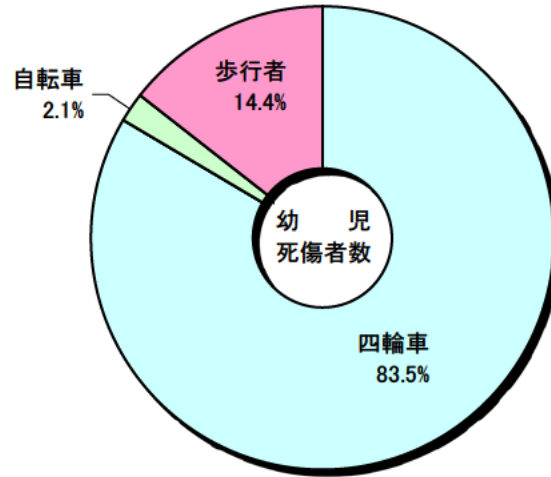
※3 「構成率」は、全交通事故(発生件数、死者数、負傷者数)に占める割合とした。

2 死傷者数

(1) 月・状態別

状態別では「四輪車(同乗)」(83.5%)、月別では「12月」が最も多くなっています。

月別状態別では四輪車は「12月」、歩行者は「11月」が最も多くなっています。



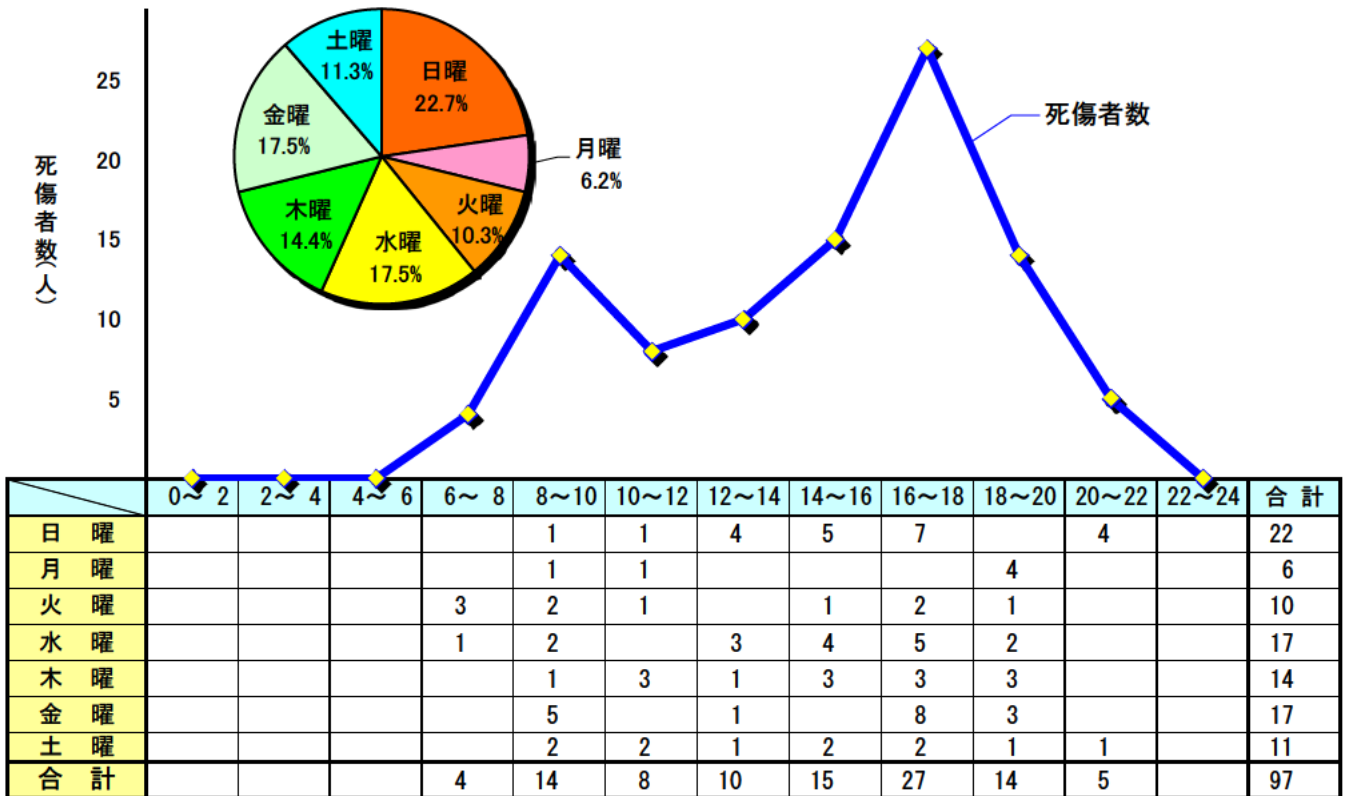
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
四輪車	13	14	8	5	2	4	4	9	3	1	3	15	81
二輪車													
自転車													
同乗								1		1			2
歩行者													
横断		1		1	1						3	2	8
その他		1			1	1			2	1			6
その他の人													
合計	13	16	8	6	4	5	4	10	5	3	6	17	97

※1「四輪車」はすべて同乗中である。

2「その他の人」とは、家屋内等建物や物件内にいた者等をいう。

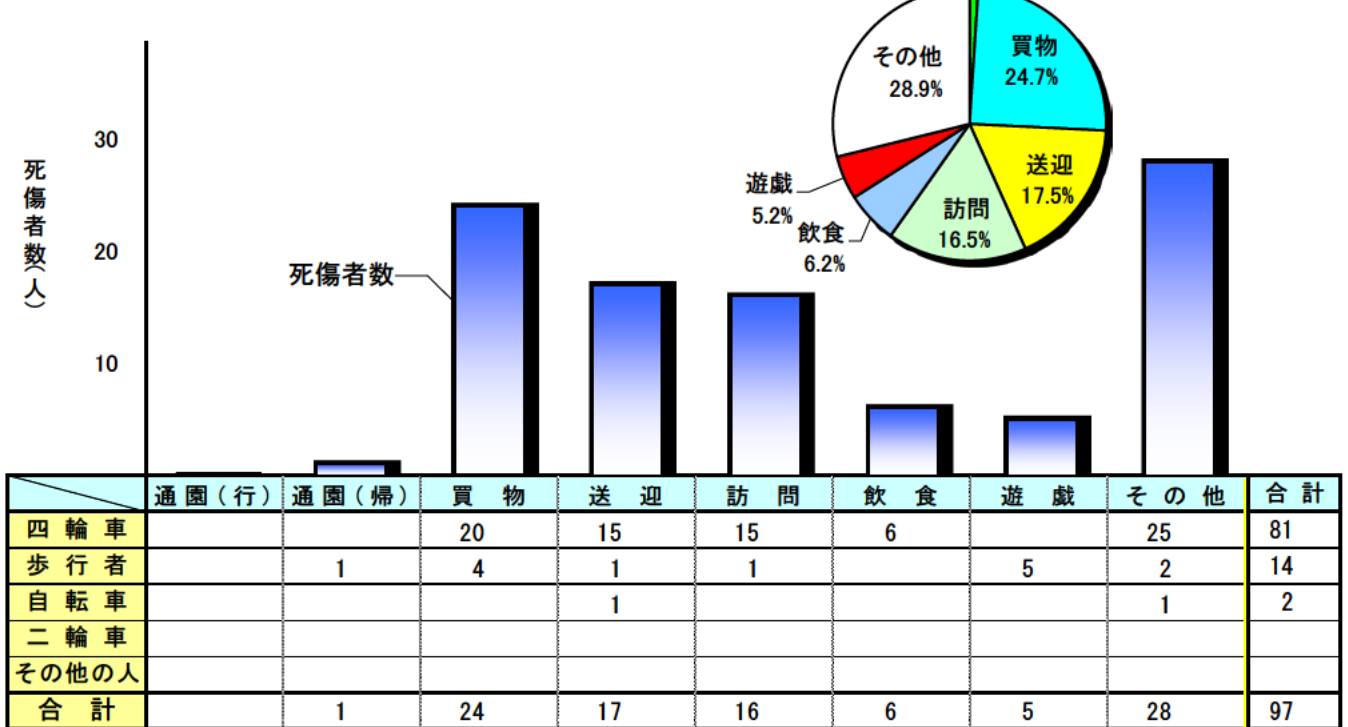
(2) 時間・曜日別

時間別では「16～18時」、曜日別では「日曜日」が最も多くなっています。
 時間別曜日別では、「16～18時の金曜日」が最も多くなっています。



(3) 状態・目的別

目的別では「買物」が最も多く、次いで「送迎」となっています。
 状態別では四輪車は「買物」、歩行者は「遊戯」が最も多くなっています。



※1 目的のうち、保護者等と共に行動している場合は、保護者等の目的に準ずる場合がある。
 2 「その他の人」とは、家屋内等建物や物件内にいた者等をいう。
 3 「観光娯楽」にはスポーツ等を含む。

(4) 原因別(自転車・歩行者)

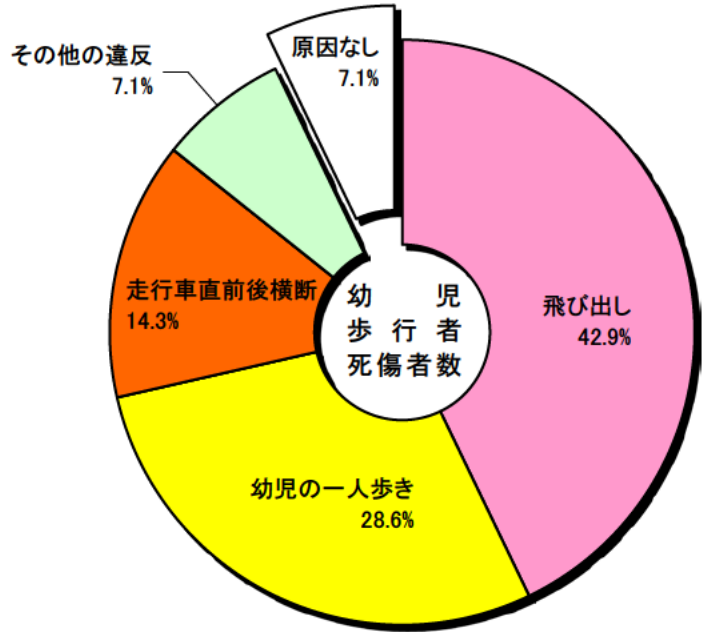
ア 自転車

「原因なし」(同乗者)が2人でした。

イ 歩行者

「飛び出し」が最も多くなっています。

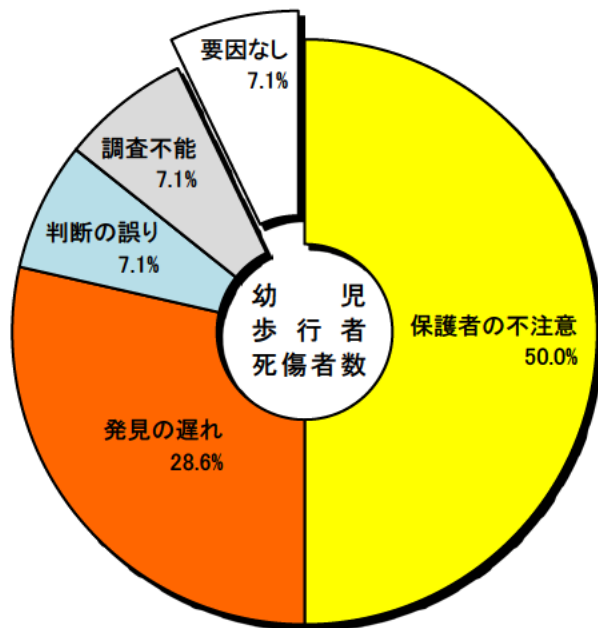
		死傷者数
飛び出し		6
幼児の一人歩き		4
直前後横	駐停車	2
	走行車	
横断歩道外横断		
その他の違反		1
原因なし		1
合計		14



(5) 要因別(歩行者)

「保護者の不注意」が最も多く、次いで「発見の遅れ」となっています。

		死傷者数
保護者の不注意		7
発見の遅れ		4
判断の誤り		1
その他の要因		
調査不能		1
要因なし		1
合計		14



※1 「保護者の不注意」には、手をつないでいない、一人で外出させた等を含みます。

2 「発見の遅れ」には、遊びに夢中、安全確認をしなかった等を含みます。